

研究・調査報告書

報告書番号	担当
16	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
The role of alcohol in deaths presenting to the coroner's service in Cork City and County. コルク市での検視作業に送る死亡者のアルコールについての役割	
執筆者	
Bellis M, Bolster MA, Doyle CT.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Ir Med J. 2009 Jan;102(1):13-5.	
キーワード	
飲酒、HIV、縦断的研究、女性	
要旨	
<p>後ろ向き研究が、2003年と2004年にコルク市の毒物分析のために送られた検死血液サンプル中のアルコールの含有率および濃度を決定するために行なわれた。これらの死の報告書は、検死時のアルコールの有無、血中アルコール濃度(BAC)、年齢および性のが調べられる。血中アルコール分析(BAA)のために送られたサンプルのうち、38.4%はアルコール陽性であった。死因によるアルコール陽性率に有意な差があった。アルコール陽性のケースは陰性に比べ有意に若く(44.3 +/- 17.8年 vs. 51.9 +/- 19.4年)、52パーセントの運転手は、死亡時アルコール陽性であった。将来の惨事を防ぐためには、アルコールの有害で、潜在的に致命的な影響についての認識がコミュニティー内で持ち続けるべきである。</p>	